

メッセージアウトライン

コリント人への手紙 第一11:27~34 「自分を吟味せよ」

[27]「したがって、もし、ふさわしくないままでパンを食べ、主の杯を飲む者があれば、主のからだと血に対して罪を犯すことになります」

ふさわしくないままで聖餐式に臨む者とはどのような者か。それは未信者ではなく、クリスチャンでありながらふさわしくない者を指す。直接的には11:17~22でパウロに叱責されている一部のコリントのクリスチャンたちである。彼らは教会での食事の時間を兄弟愛、隣人愛の実践どころか差別と分裂分派の場としていた。このような状態で聖餐式に臨む者は聖餐式の神聖さを損なって、そこに象徴されている主のからだと血に対して罪を犯すことになるのである。

[28]「ですから、ひとりひとりが自分を吟味して、そのうえでパンを食べ、杯を飲みなさい」 自分を吟味することに関しては→ウェストminster大教理問答171参照

コリント教会のクリスチャンは、よくよく自分を吟味して自分を正すことが必要である。そして、これは彼らだけではなく、いつの時代のクリスチャンも心しなければならない。

[29-30]「みからだをわきまえないで、飲み食いするならば、その飲み食いが自分をさばくこととなります。そのために、あなたがたの中に、弱い者や病人が多くなり、死んだ者が大ぜいいます」

コリント教会の多くの者たちは、聖餐式でキリストのみからだをわきまえないで、平気で飲み食いし、聖餐を汚したがゆえに、弱くなり、病気に倒れ、死をもって罰せられていたのであろう。クリスチャン一人一人のからだは聖霊の宮であり(6:19)、クリスチャンの集まりが教会であり、キリストのからだを形づくっている(エペソ1:23,2:20-22,5:30)。

自分を吟味せず、キリストのからだをわきまえようとせず、聖餐に臨むならば、神のさばきに会う。これは厳粛な警告である。

[31-32]「しかし、もし私たちが自分をさばくなら、さばかれることはありません。しかし、私たちがさばかれるのは、主によって懲らしめられるのであって、それは、私たちが、この世とともに罪に定められることのないためです」

私たちは自分を吟味して、神にさばかれる前に自分を正していかなければならない。

→Iヨハネ1:9、マタイ5:23~24 しかし、それでも神にさばかれるようなことがあるならば、それは主の懲らしめ、愛のむちとして甘んじて受けなければならない。神のさばきは私たちが、この世とともに罪に定められることのないために下されるのである。

[33-34]「ですから、兄弟たち。食事が集まるときは、互いに待ち合わせなさい。空腹な人は家で食べなさい。それは、あなたがたが集まることによって、さばきをうけることにならないためです。その他のことについては、私が行ったときに決めましょう」

教会での食事のとき、われ先にと食べ始めるのではなく、互いに待ち合わせて食事とともにする。それは兄弟愛の現れの間、美しい交わりの時となる。これは現実の食事のマナーであり、クリスチャンとして当然の配慮である。単に空腹を満たすためなら、自分の家で食べなさいと。こんなことまで手取り足取り、教えられなければならなかったコリント人たちは大いに恥じ入り、面目を失ったことであろう。

私たちも聖餐式の時ばかりでなく、どんな時でも、神の前に正しく歩んでいるか自分を吟味していくことが大切である。

最後に→ I コリント 6 : 9 ~ 20